

ニホンジカの管理の基本と特定計画推進のためのポイント

株式会社 野生動物保護管理事務所
岸本 康誉

講演要旨

シカは、農林業被害に加えて、自然植生へも深刻な影響を及ぼすことから、計画的な個体群管理が必要な獣種である。ここでは、シカによる被害の特徴や、シカの生態、対策の基本を説明するとともに、各種計画の策定と進行管理に関するポイントを解説する。

■シカによる被害の特徴

シカは、深刻な農業被害を及ぼす獣種であることに加え、林業や自然植生への影響も甚大である。この内、自然植生への影響は、過度な採食圧による下層植生の衰退をはじめ、高木性稚幼樹の消失や土壌流出による生態系基盤の消失にもつながっている。

■シカの生態や対策の基本

問題の深刻化や拡大の原因はシカの個体数の増加や分布域の拡大によるものが主であり、シカの繁殖能力の高さや食性の幅の広さなど、様々な環境下での適応能力の高さからもたらされている。このような生態特性を持っているシカを適切に管理していくには、各計画に基づいた強度な捕獲による個体数管理等が必要である。

■シカの計画の策定と進行管理に係るポイント

鳥獣保護管理法関連のシカの計画には、第二種特定鳥獣管理計画、年度別実施計画、指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画があり、ここでは各計画の目標設定の方法を解説する。

第二種特定鳥獣管理計画には、中長期的な管理の目標（管理目標）として、被害をどの程度まで減少させるか、そのためにシカの生息密度（密度指標）をどこまで下げるかを具体的な数値を用いて設定する。これらの値は地域によって異なるため、各地域の農業被害や森林生態系への影響に関するモニタリング結果に基づいた設定が必要である。

年度別実施計画には、短期的な目標として、管理目標を達成するために、捕獲や被害対策をどの程度実施するかといった対策等の規模を設定する。そのためには、生息動向把握のためのモニタリングとデータに基づいた解析を毎年実施していく必要がある。

指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画における目標は、事業の目的や規模によって異なり、より狭い範囲での設定には、過去または周辺で収集されてきた捕獲記録に基づいた設定が有効である。そのためにも、各捕獲区分の中で、捕獲効率が集計できる情報を収集していくことが重要である。

これらの各種計画における対策の実施状況などに応じて速やかに今後の方針を決定していくには、情報の管理と共有の体制を予め整理しておくことが重要である。ここでは、指定管理鳥獣捕獲等事業を例に情報共有と進行管理の在り方を説明する。